

今後の方向づけのために

「熊本の特色、それは阿蘇、天草に象徴される美しい大自然です。産業も文化も、この大自然に調和する姿で発展を図らねばなりません。その意味で、美しい熊本づくりは、今後の県政の重要な前提であると同時に、最後の到達目標でもあります。」

このような趣旨でスタートした「美しい熊本づくり」を具体的に推進するために、今回は宇部方式を学んでみたいと考えます。合わせて、第二回美しい熊本づくり推進会議における知事挨拶、運動の経緯と展望などを特集しました。



▲江津湖の数倍もある常盤公園一帯。緑に包まれた市民のオアシスである。

■街路樹と花壇が美しい宇部

宇部市の表玄関である新川駅に降りるとたんにうっそうと茂る駅前広場の緑が、われわれの歎息を誘った。駅前と云えば、アスファルトに群がる車。ガス、騒音、埃以外を想像できない者にとつて、この宇部新川の駅前広場には奇妙なとまどいを感じる。つまり広場ではない。大部分の空間が様々な樹木に占拠されて、あたかも僅かに残された間隙を、往き来しているかのような人と車。その広場から市街地に向けて、整然とした並木が始まる。

宇部の並木は大木に育っている。柳、ポプラ、プラタナス。特別の樹種はないが、幹は太く、亭々として健やかである。表裏の区別なく、どの道にも遅しく伸びている。交通の見透しを保つため、根元から三・五メートルは枝がない。

中でも立派なのは常盤通り。五〇メートル道路の中央に分離帯があり、歩道との間にさらに分離帯があつて、つまり三本の分離帯が美しい緑を蓄えている。目立つのは爽やかな桃の多いこと。根元には草花が植えられている。歩道は四角いプ

緑と花と彫刻の町 I 宇部の実績に学ぶ

美しい常盤公園を背景にして、宇部の西田市長さんから苦心談を聞いた。県政番組「県民のひろば」も同時取材したが、録画の本番には乗らなかった本音みたいな話——気狂いが三人いる。一人は樹の気狂い（市都市開発部長の山崎氏）、一人は花の気狂い（婦人問題対策審議会長の上田芳枝氏）、あと一人は市営苗圃センターの所長。私はこの連中から追い廻されているというのである。

この気狂い諸氏のうち、今回は山崎、上田の両氏にお眼にかかった。山崎氏は目下宇部市役所の推進責任者。美化推進の拠どころはとたづねたら、「看花満眼涙」という色紙を示した。よくぞ育ててくれたという感謝の気持ち——連れだつて、あちこちと案内していただいたが、山崎氏の眼には時折りきらりと光るものがあった。つまり一人の役人ではない。樹の生命と別れがたい撫育者の心境が有々と伺われた。この人がこのポストにあると同時に、市民自身の選択であるような気がした。

宇部の特色は、街路樹と花壇だと思ふが、川も公園も美しい。市の中心を流れる真縮川は、兩岸二キロにわたって樹木豊かな河川公園になっている。藩制時代に築かれた人造湖だと云う常盤公園は、宇部の美化ここにきわまるといふ感があり、ただ驚くばかり。上下の江津湖を数倍にしたほどの湖が松林に包まれて、そこここに、市民の手によって植えられた様々な樹木が森を成している。彫刻の広場もある。二年に一回、野外彫刻展が開かれて、全国から著名な作家が出品する。その力作が公園や市街地に、数多く残されている。

工場の緑化も進んでいる。工場の塀をはさんで、うち外に夾竹桃の並木が延々と続いている。大量の酸素を消費する工場は、それに見合う酸素を生産すべきだという話。全く恐れ入るばかりである。

特集・美しい熊本づくり運動

■宇部をつくった市民運動

より市民運動のリーダー。この人と話しているとき、美化運動の理論と実践が、ひとかたまりになった化身のように想われて、気押される感がある。女史が会長を勤める女性問題対策審議会は、赤線廃止など戦後の女権確立運動の中で発足した組織だとのこと。いわゆる婦人会とは違つ

て、市長の諮問機関としての性格も持っているが、めっほう強い行動力を持っている。宇部では市民の意見を尊重しない市長は勤まりません」と言い切る。宇部の市民運動は婦唱夫隨の運動と思われる。女史の話で印象が深かったのは市民運動と行政のエコーの話。市民運動の組織から、何か要求があつたとする。これを受けて市長は、それを実現する方法を諮問する。市で出来ない部分は、自分たちがこうするといふ具体案を出す。合意に達すれば両者でそれを実現するという仕組みである。「町を彫刻で飾る運動」も「街路樹と花壇を育てる運動」も、このようなエコーの繰り返しのなかで進んだ。

戦前から昭和三〇年代の前半まで、悪名を売った粉塵の町、公害都市であった宇部は、いまわが国随一の緑と花の工業都市に生まれかわった。粉塵の発生源であった炭鉱が、エネルギー革命で衰退したこともあるが、その後には一層大規模になった石油企業が、宇部の空気をよごしていた。つまり公害が追放されたからでなく、文字通り、緑と花が増えたから宇部の街が蘇がえったと思われる。

■緑と花の工業都市づくり

樹も花も、苗は市が供給している。市直営の苗圃を持ち、折られても抜かれても次々に補植する。市の職員十五名に精薄施設の卒業生十名、計二十五名が二ヘクタールの苗圃に勤めている。育苗の配布、街路樹の手入れ、落葉の清掃の他、暇があれば花壇用のブロック、街路樹の